

第二章活用事例

「あの日をさかいに」―糸川 英夫―

小学校三・四年生版

「心しなやかに」 p.38
「あの日をさかいに」 p.45

【主題名】 相手のことを考えて

第二学年及び第四学年 2-1(2)

「相手のことを思いやり、進んで親切にする。」

【ねらい】 相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする態度を育む。

《ねらいに関する道徳的価値について》三・四年生の時期の児童は、相手の気持ちを考えられるようになる反面、ささいなことから友達と衝突することも増えます。困っていたときに誰かに助けられた経験などを振り返らせて思いやりの大切さをあらためて実感させ、身近な人が困っていたり大変な思いをしたりしているときに、それを理解し進んで親切にしようとする姿勢を身に付けさせることが大切です。

導入



「日本で最初にロケットを開発した人を知っていますか。」

○糸川英夫がペンシルロケットを持っていく写真を提示しましょう。
ペンシルロケットや小わく星「イトカワ」の写真も見せ、糸川英夫が日本で最初にロケット開発を手がけ、「ロケット開発の父」と称されていることを紹介して、資料への興味をもたせましょう。

○教師が「あの日をさかいに」を読み聞かせましょう。



「また今度来てくれるかな。」と言って外に飛び出していったとき、英夫はどのようなことを考えていたでしょうか。」

○英夫が、自分が手を加えたペーゴマを試すために外に出たことに着目させ、相手のことを考えず、自分のことを優先している様子を捉えさせましょう。

中心発問



「母の言葉を聞いて、英夫はどのようなことを思っただでしょうか。」

○「英夫は頭をガツンとなぐられたような気分になりました」という部分に着目させ、英夫が、自分の思いやりのなさや、相手の立場に立って考えることの大切さに気付いたことを捉えさせましょう。
《評価》 相手の立場になって考え思いやることの大切さに気付けたか。



「これから、来ていいかな。」という五郎の言葉に、にっこりしうなずいたとき、英夫はどのような気持ちだったでしょうか。」

○「五郎が来るのを楽しみに待つようになりました」という部分に着目させ、相手のことを考えて親切にすることができた英夫の気持ちを捉えさせましょう。



「今まで進んでだれかに親切にしたことはありませんか。そのときどのような気持ちでしたか。」

○「心しなやかに」 p.104
「思いやりの心をとどけよう」の「あなた、相手の気持ちを考えて親切にしたことを書く。」に記入させ、発表させましょう。

○教師自身が、相手のことを思いやり、進んで親切にすることができた体験を、子供たちに語りましょう。

終末

○「心しなやかに」 p.104
「思いやりの心をとどけよう」の文章を読み、授業のまとめにしましょう。

板書例

あの日をさかいに ― 糸川 英夫 ―

ひでお

糸川英夫の写真

ペンシルロケットの写真

小わく星「イトカワ」の写真

「また今度来てくれるかな。」と言って外に飛び出していったとき、英夫はどのようなことを考えていたでしょうか。」

- このペーゴマがどれだけ強いのか、早く試したい。
- このペーゴマで、みんなに勝ってみせる。
- みんな、このペーゴマの強さにおどろくにちがいない。

母の言葉を聞いて、英夫はどのようなことを思ったでしょうか。」

- 五郎くんのことをまったく考えず、自分のことしか考えていなかった自分が恥ずかしい。
- 五郎くんは自分をたよりにして来てくれたのに、あんなことをして、五郎くんにすまない。
- 自分が五郎くんの立場だったら、どれほどさびしく悲しい思いをしただろう。

涙がこぼれそうになっている英夫の挿絵

「これらかも、来ていいかな」という五郎の言葉に、にっこりしうなずいたとき、英夫はどのような気持ちだったでしょうか。」

- 五郎くんがよろこんでくれてうれしい。
- 五郎くんのために自分が役に立つことができよかったです。
- これからも、五郎くんに勉強を教えられよう、自分もがんばろう。

にっこりしうなずいている英夫の挿絵

今まで進んで誰かに親切にしたことはありませんか。そのときどのような気持ちでしたか。」

- バスの中で、お年よりに席をゆずった。よろこんでくれてうれしかった。
- 友だちが係の仕事が終わらなくてこまっていたので、手伝った。終わったとき、うれしそうな顔でおれいを言われて、自分もうれしかった。

《評価》 相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする態度を育むことができたか。